

憩いの場へ民家を改装

直方市上境出身の自営業、舌間仁美さん(54) Ⅱ福岡市Ⅱが、空き家となっていた実家近くの親類の家を改装、フリースペースとして開放している。カフェもあり、「地域の多くの人に利用してほしい」と呼び掛けている。



フリースペースで毎月開かれている手遊び歌と絵本の読み聞かせ

直方出身の舌間さん 古里で開放 読み聞かせなど「利用を」

昨年夏、上境バス停そばの木造2階建て住宅を改装し、11月3日にオープンした。1階の8畳の洋間がフリースペースで、隣接する台所はカフェにリフォームし、義弟が店主を務めている。別の8畳間は和室として利用できる。玄関部分には地域の伝統行事を描いた絵も展示している。

フリースペースでは、読み聞かせボランティアの「おはなしやピコ」が5月から月1回、手遊び歌や絵本の読み聞かせを行っている。「手ごろな空間で声の響きもいい」とメンバーの反応もいい。

舌間さんは「高齢化、過疎化が進む地域で、誰もが集い憩うことができる場所になればと思う。趣味の会の教室や作品展示、おしゃべりの場などとして若い人から高齢者まで気軽に使ってほしい」と話している。フリースペースの利用は、午前9時半から午後4時半ごろまで。料金は約2時間で500円。原則金・土曜は休み。舌間さんⅡ090(3463)2033。(木下良弘)

民家を改装したフリースペースなどの利用を呼び掛ける舌間仁美さん